

厚生委員会報告資料

令和元年 12月 11日

報告事項件名	頁
(1) 地域包括ケアシステム梅田地区モデル事業の取組み状況について・・・・・・・・	2

(福 祉 部)

厚生委員会報告資料

令和元年12月11日

件名	地域包括ケアシステム梅田地区モデル事業の取組み状況について
所管部課名	福祉部高齢者施策推進室地域包括ケア推進課
内容	<p>地域包括ケアシステム梅田地区モデル事業の取組み状況について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 梅田地区モデル事業の主な取組み状況</p> <p>(1) 居場所の開設 地域での「つながり」を保つための居場所として「つながり処うめだ」を週2日、地域包括支援センター関原内に開設(44回実施、のべ725名参加)。</p> <p>(2) 高齢者出張相談窓口の展開 地域包括支援センター内の窓口だけでなく、アウトリーチにより高齢者からの相談に応じることを目的に相談窓口を展開。</p> <p>(3) 子どもたちへの認知症理解の促進 梅島第二小学校の5年生を対象とした認知症サポーター養成講座を実施(児童59名、保護者6名、地域住民6名参加)。 詳細は別紙1「梅田地区モデル事業の取組み状況」参照</p> <p>2 今後の展開</p> <p>(1) 梅田地区での展開(令和元年度) 前年度からモデル事業の企画を検討し、事業実施の支え手となった地域プラットフォーム「モデル事業検討会」による、これまでの実施状況についての意見交換を年内に実施する。 検討した内容は、今年度の1月以降の事業に反映していく。</p> <p>(2) 他地区への展開(令和2年度以降) 令和2年度上半期を目途にモデル事業の実施結果を「モデル事業検討会」などで検証し、「足立区地域包括ケアシステム」構築に有効な取組みをまとめる。 そのうえで、令和3年度以降に区内他地域へ展開するための具体的な手法について検討していく。</p>

【参考】モデル事業検討会構成メンバー 委員数 26名

専門機関	地域	職員
医師	自治会長	地域包括支援センター関原職員
歯科医師	民生委員	
薬剤師	絆のあんしん協力員	基幹地域包括支援センター職員
理学療法士		
作業療法士		区職員 事務(絆づくり担当) 栄養士 歯科衛生士 建築(住宅担当)
柔道整復師		
管理栄養士		
ケアマネジャー		
ヘルパー		
訪問看護師		

問題点
今後の方針

引き続き、地域包括ケア推進課がコーディネーターとなり、庁内外の関係者との協働・協創により地域包括ケアシステム構築に取り組んでいく。

【別紙1】梅田地区モデル事業の取組み状況

※実績値は令和元年10月までの数値

梅田地区でめざすもの「老後の備え」をはじめる

A 地域をつなげる
梅田地区の中で安心して人生を全うすることができるよう、民生委員、町会・自治会などの区民・地域や、医療・介護・地域包括支援センターなどの専門機関のつながりをつくる。

B 老後を考える
区民が、老後の自立期から「運動・栄養・社会参加」のこころを、終末期までに「どんな最期を迎えたいのか(意思決定・財産管理)」を考える。

C 地域を支える
地域が、地域の課題を把握し、その解決のために、支援の必要な高齢者の支え手となる。

A	B	C	企画	取組み	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
			企画1	高齢者の居場所を拠点とした取組み	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				1-1 居場所の開設 地域包括支援センター関原 (毎週月・金13:00-15:00) ・専門相談を月1回程度実施	<ul style="list-style-type: none"> 居場所として定着(定期開催、年度を通じた予定の確立) 運営サポーターによる運営の確立 担当地区内での居場所の確保(梅田地域学習センターとの連携) 	<ul style="list-style-type: none"> 「居場所」(つながり処うめだ)を継続実施し、「居場所」を拠点に俳句教室や朗読会などのイベント、介護やお薬などの相談会を実施【実施回数】44回【参加者数】725名 令和2年3月まで継続して居場所を開設予定 	<ul style="list-style-type: none"> 居場所の運営は軌道に乗ったが参加者の拡大が必要。 運営サポーターも活躍している。 利用者が固定化しており、さらなる周知が必要。⇒モデル事業広報による周知を強化。
			企画2	高齢者出張相談窓口の展開	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				2-1 町会・自治会への出張相談窓口の展開 1団体あたり年1回を予定	<ul style="list-style-type: none"> 出張相談窓口の定期的な開設 運営サポーターによる運営の確立 大型商業施設などでの出張相談窓口開設の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 足立成和信用金庫中央支店年金感謝デーでセンター周知及び出張相談を実施 町会・自治会の夏祭りや老人クラブの誕生日会などで出張相談や出前講座を実施 秋の交通安全運動のテントを訪問し、高齢者への声かけを実施 梅田住区まつりにおける健康相談(体力測定・栄養相談など)の実施【相談者数】157名 	<ul style="list-style-type: none"> 住区まつりで開催した相談会では、実施に当たり多くの専門職(理学療法士、作業療法士、栄養士、柔道整復師)の協力を得られた。 出張相談により、実際に訪問につながったケースが複数あり、アウトリーチの成果が見られた。 民間施設における地域包括支援センターの周知は、これまでアプローチできなかった層への訴求などの効果が見られた。
			企画3	認知症の方への取組み	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				3-1 子どもからの認知症サポーター養成 小・中学校及び放課後子ども教室	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座の拡大実施 地域劇団による認知症理解促進活動のメニュー化 高齢者声かけ訓練マニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> 帝京科学大学の高齢者声かけ訓練に梅田地区の住民が参加【参加者数】1日目115名、2日目118名(学生含む) 梅島第二小学校での認知症サポーター養成講座の実施【受講者数】児童59名、保護者6名、地域住民6名 梅田八丁目都住における高齢者声かけ訓練の実施 ※令和元年11月、12月実施 モスバーガーカリブ梅島店における認知症カフェの開催 ※令和元年11月以降 毎月1回実施 認知症サポーター養成講座などにおける劇団「うめはる」による認知症の事例紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者からは、親子で認知症のこと考える良い機会であったという意見があり、理解促進の効果が見られた。 劇団による取組みは、地域を盛り上げ、また劇団参加者のやりがいにもつながっている。 民間飲食店における認知症カフェの開催は、他の民間企業への波及効果が見込める。⇒取組みの拡大がさらに参加者、家族など理解の輪の広がりにつながる。
			3-2 認知症への理解促進 地域住民の劇団による認知症の周知、各種イベントの開催				
			3-3 高齢者声かけ訓練の実施 地域劇団の訓練参加				
			企画4	終末期・看取りの支援	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				4-1 出前講座の実施 葬祭業者及び医療関係者とのコラボによるエンディングノートの活用PR	<ul style="list-style-type: none"> 居場所及び出張相談窓口におけるメニュー化 	<ul style="list-style-type: none"> ACP関連イベントの実施【日時・場所】令和2年2月1日(土)午後【場所】梅田地域学習センター ※ACP: Advance Care Planning (アドバンス ケア プランニング) 自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組み 	<ul style="list-style-type: none"> 誰に(区民、事業者)、何をメッセージとして伝えるか、目的を明確にし関係者で共有したうえで企画を検討していく。
			企画5	ICTを活用した医療と介護の情報共有	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				5-1 ICTツールの活用検討 メディカルケアステーションの活用	<ul style="list-style-type: none"> 試験導入のレポート作成 他自治体での状況などもあわせて、レポートを区内事業者へ情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関や介護事業者等と連携し、MCSを活用した情報共有の検証を実施 ※MCS: MedicalCare STATION(メディカルケアステーション) 完全非公開型 医療介護専用SNS 	<ul style="list-style-type: none"> 医療・介護事業者などによる検討チームで実施予定。 ツールの活用は手段であり、連携のあるべき姿について検討することが重要。
			企画6	地域のちからの活用による見守りの強化	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				6-1 「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」の重点実施 10地区の町会・自治会に対して重点的に展開	<ul style="list-style-type: none"> 対象の全ての町会・自治会が「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」を実施 元気応援ポイントの利用者増 地域と施設との定期的な交流事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 《「わがまちの孤立ゼロプロジェクト」の重点実施》 ・【新規実施団体数】3団体 《介護施設など的高齢者と地域との交流》 ・介護事業所(デイサービスうぐいす梅島)の夏祭りに、地域の絆のあんしん協力員や日本舞踊サロンと参加し、通所者と交流 ・福寿会作品展覧会への地域サロンの参加による介護施設など的高齢者と地域との交流を実施【参加サロン数】6団体 	<ul style="list-style-type: none"> 町会・自治会に既存の取組みの強化や新たな取組みを依頼するには、高齢化などによるマンパワー不足が課題となる。 地域と施設との定期的な交流事業は、地域の方々の活動のやりがいとともに、施設利用者の地域との交流につながる。
			6-2 上記町会・自治会による元気応援ポイント事業の運用検討				
			6-3 介護施設など的高齢者と地域との交流				
			企画7	その他の取組み	1年後の展開、到達点	これまでの実績及び令和元年度の今後の取組み予定	事業の実施から見えてきたこと
				7-1 高齢者見守りツールの活用	<ul style="list-style-type: none"> 見守りツール利用者の声を集め、助成金の制度と合わせて利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 《住宅相談》 ・地域包括支援センター関原の「居場所」にて、区職員による住宅相談を実施【実施回数】3回【相談件数】6件 《孤食対策》 ・梅田地域学習センターとの共催による高齢者同士が一緒に食事する機会「シルバーふれあい食堂」の実施【実施回数】1回【参加者数】14名 ※令和元年10月以降 毎月1回実施 《モデル事業広報による周知》 ・「65歳からのいきいきうめだ暮らし」を作成し、梅田地区の自治会で回覧などを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 見守りサービス助成開始(令和元年7月)後の状況を調査し、ツールの種類や特徴など利用者に必要な情報提供のあり方を検討予定。 住宅相談は、住まいの相談に限らず生活全般の相談内容となる傾向がある。 高齢者が摂取すべき食事(栄養)に関する相談や情報提供の機会が不足している。
			7-2 栄養相談 高齢者の孤食対策 出張相談窓口での栄養相談 地域栄養士の発掘・ネットワーク化 リーフレットの作成				
			7-3 住宅相談 不動産事業者などによる高齢者の住まいに関する相談の実施				